聖泉大学図書館広報

The Seisenians No.32

2018年3月1日　発行　　編集・発行：聖泉大学図書館

目　次

＊　「学生と共に図書館の活性化！」　図書館長　小山敦代　・・・1
＊　私の薦めるこの一冊　・・・2
＊　私の薦めるこの映画　・・・6
＊　私と図書館・私の図書館活用術　・・・7
＊　平成29年度図書館アンケート結果　・・・8
＊　学生図書委員・図書委員会メンバー・図書館職員・図書館学生アルバイトからの一言メッセージ

学生と共に図書館の活性化！

図書館長(看護学部 教授)　小山 敦代

本学図書館は、昭和60年度短期大学スタートから32年が経過しました。その間、平成15年度聖泉大学人間学部開設、平成23年度看護学部開設、平成27年度大学院看護学研究科、別科助産専攻開設と、時代と地域のニーズに対応できる人材育成を目指した大学改革と発展の歩みに併せて、図書館も充実してきております。

本誌の名称The Seisenians は、英語科の元客員教員John Michels（ジョン・マイケルズ）先生が考えてくださった『聖泉人』を意味する造語で、聖泉大学に集うすべての人々を指す言葉です。No.31までのThe Seiseniansに目を通しますと、どの時代も図書館が学生、教職員にとって知と情報の場として大きな役割を果たしてきたことが伝わってきます。

平成27年度、私は図書館長を拝命して最初の想いは、「もっとイキイキとした図書館にしたい！」でした。そこで、「図書館の活性化」を目標に掲げて、大学をあげて環境の整備、情報資源の充実等の改善に取り組んでまいりました。しかし、何よりも学生中心の大学図書館でありたいとの想いから、平成28年度には、大学図書委員会の下に「聖泉大学学生図書委員会内規」を定め、学生図書委員会を設けて学生の活動がスタートしました。毎月昼休みに会議を開き学部・学年を超えた交流も楽しく、少しずつ軌道に乗ってきました。その成果は、学生のニーズ把握、学生選書等の取り組みはもとより、学生の意識、活動が主体的になることで図書館の空気・雰囲気が明るく変化してきていることや利用者が増えてきたことです。平成29年度には、学生から学生に発信する図書情報Knowledge Friends（ナレッジフレンズ）の発刊に至りました。図書委員の他にも夜間・休日の図書館アルバイトや蔵書点検・整理のボランティア等、学生と共に創る図書館の活性化は、お互いの顔が見える小さな大学の小さな図書館ならばこそのスモールメリットを実感します。図書館の充実・活性化こそが、大学の魅力を反映することを心して学生・教職員が一体となり情報と知、癒しと和、元気が出る図書館創りに努力していきたいものです。

学生から学生に発信する図書情報
Knowledge Friends
（ナレッジフレンズ）

私の薦めるこの一冊

人間学部の先生にお薦めの図書を紹介していただきました。

『君たちはどう生きるか 』

吉野源三郎 著　　マガジンハウス（2017）

図書館内の場所　159.7‖Y

人間学部　教授　李　艶

学生のみなさん、読書は私たちに生きる知識を与え、私たちの成長に大きな力と知恵を与えてくれます。本の海の中で泳いでみませんか。

皆さんに推薦したい本が沢山あり、どれを推薦したらよいか迷いました。皆さんの年代を考えて、吉野源三郎著「君たちはどういきるか」という本を推薦します。きっとあなたに大きな感動を与える本に違いありません。

吉野源三郎は、編集者・児童文学者・評論家・翻訳家・反戦運動家・ジャーナリストでもあります。昭和を代表する進歩知識人と言われています。主著の『君たちはどう生きるか』は、刊行から85年経過したが、今もって評価が高い本で、今や古典と言ってもよいでしょう。

どの時代でも「私は誰、どこから来たか、どこへいくの」という哲学的な問いに悩んでいる若者が自分探し、人生探しに苦しんできました。これからの社会はますます予測困難となります。私たちの生活はあらゆるところにAIを活用され、大きく変わろうとしています。今までの生き方がよいでしょうか、それとも昔の先人たちの教えこそが不滅な人生知恵でしょうか。本著はこのような問いに対して、若者のみならず大人にも考えを深めるための羅針盤になると思います。

本書の主人公は一人の中学生（コペル君と呼ばれている）とおじさんです。コペル君の出来事とおじさんのノートという書き方で物語が進んでいきます。おじさんノートには、「ものの見方について」「真実の経験について」「人間の結びつきについて」「人間であるからには」「偉大な人間はどんな人か」「人間の悩みと、過ちと、偉大さについて」に分けて、もの・人・世の中三つキーワードを中心にして、私たちに人生への示唆を示してくれます。その中から、私自身が大きな感銘を受けた表現いくつか紹介します。

「…大概の人が、手前勝手な考えにおちいって、ものの真相がわからなくなり、自分に都合のよいことだけを見てゆこうとするものなんだ…」

「…人間としてこの世に生きているということがどれだけ意味あることなのか、それは、君が本当に人間らしく生きてみて、その間にじっくりと胸に感じなければならないことで、はたからは、どんなに偉い人を連れてきたって、とても教え込めるものじゃない。…」

「世間には、他人の目に立派に見えるように、振る舞いっている人が、随分ある。そういう人は、自分が人の目にどう映るかということを一番気にするようになっていて、本当の自分、ありのままの自分がどんなものかということを、ついお留守にしてしまうものだ。…」

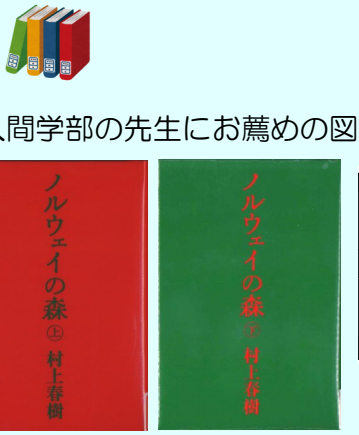
「人間が人間同士、お互いに、好意をつくし、それを喜びとしているほど美しいことはほかにありはしない。そして、それが本当に人間らしく人間関係だと…」

「…人間であるからには、たとえ貧しくともそのために自分をつまらない人間と考えたりしないように、――また、たとえ豊かな暮らしをしたからといって、それで自分を何か偉いもののように考えたりしないように、いつでも、自分の人間としての値打ちにしっかりと目をつけて生きてゆかねければいけない。…」

「…およそ人間が自分をみじめだと思い、それを辛く感じるということは、人間が本来そんなみじめなものであってはならないからだ。…」

「…人間の本当の人間らしさを僕たちにさせてくれるものは、同じ苦痛の中でも、人間だけが感じる人間らしい苦痛なんだ…」

「……コペル君は、こういう考えで生きていくようになりました。」君たちはどう生きるか。本書の最後の言葉をお借りして、私の終わりの言葉とさせていただきます。



私の薦めるこの一冊

人間学部の先生にお薦めの図書を紹介していただきました。

『ノルウェイの森　上・下』

村上 春樹 著　　講談社（1987）

図書館内の場所　913.6‖M‖1・913.6‖M‖2

人間学部　助教　山越　章平

「わたしの薦めるこの一冊」として，「ノルウェイの森」を紹介したいと思います．この本は世界的にも有名な作家である村上春樹さんが著者であり，また上下巻合わせて2000万部以上売れているベストセラーですので知っている方も多いかと思います（最近知ったのですが，この本は，「世界の中心で，愛をさけぶ」に抜かれるまで日本における小説単行本の発行部数歴代1位だったそうです）．この本では，主人公の「わたなべ」が自殺した友人の恋人だった「直子」と，大学で出会った「ミドリ」という2人の女性との関わりの中で「生と死」について考え成長していく過程が描かれています．

本書を薦める理由としては，この本は人生において大事なことについて考えるきっかけを作ってくれるからです．例えば，本の帯文には村上春樹さん自身が「100パーセントの恋愛小説」というキャッチフレーズを書いています．この本は確かに恋愛小説の部類に含まれるかと思いますが，私が気になったのは100パーセントの部分です．恋愛小説と聞くと，普通は，主人公と主人公が好意を向けている人が1）紆余曲折を経て最終的に付き合う，2）付き合ったけど何か不幸なことが起きて別れてしまう，3）付き合えなかったけど楽しい時間を過ごしたといったような展開を予想すると思います．しかし，「ノルウェイの森」はとても暗い小説であり，死で満ちています（詳しくは小説を読んでください）．このような内容にも関わらず，著者は100パーセントの恋愛小説と言っています．この本を初めて読んだのは19歳の時でしたが，その時は「100パーセントの恋とはどういうことだろう」，「恋ってこんなにも辛いことなのか」と考えていた記憶があります．今でもその答えは明確にはわかりませんが（笑）．

またこの本では，ある一文だけ太字になっています．それは，「死は生の対極としてではなく，その一部として存在している」という一文です．この本を読んだ当時は，「死は生の一部として存在している」ということに関して全く理解できませんでした．なぜなら人は死んだら蘇ることはできないと思っていたので（今でもそう思っています），死と生は対極なのではないかということです．しかし，私も少しばかり歳を重ねて様々な経験をしたことで，なんとなく「生きる」という意味について自分なりに理解してきました．

個人的な考えではありますが，「人はなぜ生まれてきたのか」や「愛するとはどういうことか」など人間の根源的なことについて考えることは大事だと思っています．なぜなら，これらの問いに対して自分なりの答えがなければ，一生懸命生きることなんて出来ないと思うからです．私もそうですが目標に向かって頑張ること，努力することが大事なのはわかっているが，それが出来ない時もあります．そんな時にこの本を読んで欲しいなと思っています．

私の薦めるこの一冊

看護学部の先生にお薦めの図書を紹介していただきました。

『逃亡くそたわけ』

絲山秋子 著　　講談社（2007）

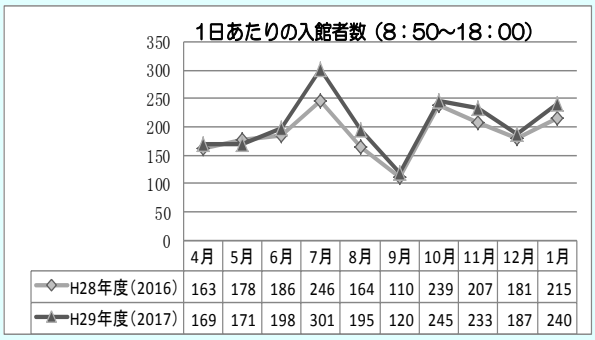
図書館内の場所　913.6‖I

看護学部　助教　栗原　はるか

『逃亡くそたわけ』と聞いて理解できるあなたは、きっと名古屋出身の方ではないでしょうか？「くそたわけ」は、名古屋弁で「大ばか、まぬけ」という意味だそうです。名古屋弁がタイトルなら舞台は名古屋！と思い来や、舞台は福岡にある精神病院からの逃亡に始まり、鹿児島で逃亡は終わります。逃亡するのは、福岡出身でコテコテの博多弁で喋る“花ちゃん”（躁鬱病 21歳 女性）と、名古屋出身なのに出身地を東京と偽り、標準語で話す“なごやん”（鬱病 24歳 男性）のふたりです。

“花ちゃん”は、躁状態に気づかず毎日を楽しく過ごしていましたが、ある日突然、幻聴が出現します。「今日は私の死ぬ日なんだ」と特別な理由もなく自殺未遂をして、その後は不本意にも精神病院へ入院することになりました。入院生活は、穏やかな時間もありますが、細かな制限や身体に合わない薬物治療を受け「廃人になる」「ここで人生が終わる」と感じる毎日でした。ある日、「ここから逃げよう！」と決意し、ひとりで逃亡しようとしたところに、たまたまいた“なごやん”を誘います。“なごやん”は、始めは乗り気ではなかったのですが、何故か逃亡のためのまとまった資金を準備し、車を調達できたことで、ふたりの九州縦断逃亡旅行が始まります。旅行中は、九州の雄大な自然や美味しい食べものに触れながら、ふたりは精神病になる前の人生を思い出したり、精神病になったことで捨てなければならなくなった人間関係の悲しみを精算したり、これからの人生を案じてみたりします。しかし、ふたりは人間が元々もっている生きるための本能やありのままの自分を表すことで、相互に思いやり、癒していく互いの力を感じるようになり、最後は自分たちで逃亡を終えることを決心します。小説の結語は“なごやん”が、名古屋弁で「くそたわけ！」と叫びますが、何に対して叫んだのか、筆者はそこを明示していません。私は、かれらの明るい未来を想像しました。精神病を患っている患者さんの気持ちや、患者さんの体験に触れることができるこの本は、一見とてもやり場のない暗いお話のように思えますが、彼らの逃亡旅行の状況が方言や細かい描写で表されており、ポップで爽快感さえ覚えます。この小説はフィクションですが、作中に登場する地名や学校名、食べ物は全て実在しますので、九州や名古屋に縁のある方は、懐かしく親しみをもたれるかと思います。私がその代表で、福岡出身で精神科看護師の私にはたまらない一冊です。ぜひ読んでいただきたいと思います。

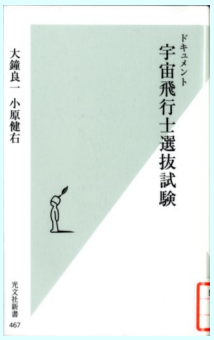
図書館の入館者数が昨年度より、増えました。
最も多かった月は、7月です。
また、来年度もこの様な報告が出来る様に利用しやすい図書館づくりを目指していきたいと思います。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
H28年度(2016)	163	178	186	246	164	110	239	207	181	215
H29年度(2017)	169	171	198	301	195	120	245	233	187	240

私の薦めるこの一冊

看護学部の先生にお薦めの図書を紹介していただきました。



『ドキュメント　宇宙飛行士選抜試験 』

大鐘良一・小原健右　著　　光文社新書 （2010）

図書館内の場所　538.9‖O

看護学部　助手　漆野　裕子

本書は、2008年に10年振りに実施された日本における第5回目の宇宙飛行士選抜試験にNHKが密着取材を行ったノンフィクション作品です。2008年6月、国際宇宙ステーションに、日本の宇宙実験施設「きぼう」が取り付けられ、本格的な運用が始まりました。日本人宇宙飛行士が宇宙ステーションに半年間定期的に滞在できるようになった大きな転機点において行われたのが今回の宇宙飛行士の募集でした。宇宙ステーションに滞在する宇宙飛行士の主な任務は大きく2つあります。1つ目は、宇宙にしかない特殊な環境を利用した「宇宙科学実験」、2つ目は宇宙ステーションそのものを建設し、維持、管理することです。さらにトラブルに対応し、修理するなど「整備士」としての役割も求められます。応募者963名の中から…続きを読む最終選抜に残った10名は、パイロットや科学者、技術者、医師など錚々たる経歴の持ち主でした。わずか数席しかない宇宙飛行士の座をめぐって、選び抜かれた10人が2週間に及ぶ「最終選抜試験」に挑みます。そこで合否を分かつのは、天才的な頭脳や常人離れした運動能力ではありませんでした。宇宙という逃げ場のない特殊な環境に耐えうる強い精神力や、国籍を超えて誰からも慕われ、信頼される“人間としての魅力”でした。候補者たちが、それぞれの人生を通して培ってきた“人間力”が、徹底的に試される試験でした。…続きを読む「宇宙飛行士選抜試験」で出された数々の課題を、候補者たちがどのように乗り越えていくのか、そのプロセスを見ていくと、必ずそれぞれが抱える課題への活路を見出すヒントが隠されているはずです。ドキュメントであるが故に、人も出来事も全てがリアルに描かれています。ワクワクした気持ちで是非読んでみてください。

教員お薦めの図書のコーナーを紹介します。

人間学部選定図書

看護学部選定図書

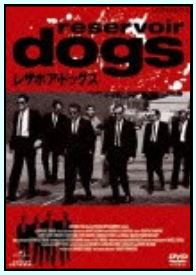
看護学部シラバス掲載参考図書

大学院選定図書

別科選定図書

私の薦めるこの映画

人間学部の脇本先生にお薦めの映画を紹介していただきました。



『レザボアドッグス』(原題：Reservoir Dogs)

監督 クエンティン・タランティーノ

NBCユニバーサル・エンターテイメントジャパン（2010）

人間学部　准教授　脇本　忍

2017年度、滋賀県と彦根市に関連する映画のマーケティング心理についてフィールドワークを実施しました。まず、近年に撮影された映画を調査すると110本もの作品があることがわかりました。昨年は「トリガール！」「散椿」「ちはやふるー結びー」などが撮影され、学生たちは各作品の広報活動や撮影助手、エキストラ出演などに関わり、今年は滋賀国際映画祭を開催しようと企画検討しているところです。

ところで映画祭といえばイタリアのカンヌ映画祭が有名です。1992年のカンヌの会場で「心臓の悪い方は鑑賞をご遠慮ください」と前置きされて上映されたのがこの作品です。見知らぬ6人の男が集められ、お互いをホワイト・オレンジ・ピンクなどとコードネームで呼び合い、宝石強盗計画を実行しますが、警察は誰かの密告で事前に犯行を把握していました。スパイが一人混じっていたのです。命からがらアジトに逃げ帰った彼らは、相互不信から裏切り者を焙りだすことにしました。この作品がヒートアップするのはここからで、仲間同士の残虐な争いに発展します。終盤はさらにエスカレートし、驚愕の結末が待っています。巧みな人間描写と時間軸をずらした演出やフラッシュバック効果を操り、低予算作品ながら刺激的なストーリーは、まさにスタイリッシュムービーの先駆的作品といえるでしょう。

監督・脚本・出演は、当時は28才のクエンティン・タランティーノです。彼はその後の94年に「パルプフィクション」でカンヌ最高賞のパルムドールを受賞し、「キルビル」「イングロリアス・バスターズ」「ヘイトフルエイト」と、近年まで個性的な大ヒット作品を発表し続けています。「レザボアドッグス」は、邦画「仁義なき戦い」の影響を受けたとインタビューで語り、後に邦画「アウトレイジ」をはじめ世界のバイオレンス作品に刺激を与えている傑作です。

タランティーノの盟友の監督がロバート・ロドリゲスです。「デスバレード」「シンシティ」「マチェーテ」などのブッ飛んだ作品を連発しています。私は「マチェーテ」を数年前の沖縄国際映画祭の招待作品として、那覇市牧志の桜坂劇場で初めて観ました。B級映画真骨頂の斬新で奇想天外な演出に、観客席から悲鳴と嬌声とが飛び交ったのを憶えています。

映画には、ハリウッド系・ヨーロッパ系・アジア系などの制作地域別のカテゴリーがあり、それらは、バイオレンス・ラブコメディ・推理・カルト・文芸・実録などと個性が明確です。映画で小難しいことを学ぶのも結構ですが、映画はエンターテインメントとして楽しむものだと思います。しかし、どの作品を観るかとなると選択が大変ですので、つい好きな俳優が出演している作品を観てしまいますが、ここでご紹介したタランティーノやロドリゲスように、気になる監督の作品を追いかけてみるのも面白いでしょう。たとえば私の主観では、ヨーロッパではパトリス・ルコント監督のアンニュイさ、アジアの鬼才キム・ギドク監督の人間観、日本では園子温監督の潜在的狂気など、作品を時系列に鑑賞すればひしひしと感じるのでお薦めします。

「レザボアドッグス」は色彩感と音楽の使い方も非常に効果的で、じつにセンスのいい作品です。脚本やカメラワークだけでなく映画が総合芸術だといわれるのがよくわかります。ぜひ、ご覧ください。

私と図書館

人間学部1年生　草野 亜梨沙

私は学生図書委員になって様々な経験をすることができました。もともと本にあまり関心がなかった私が、図書委員になったきっかけも先生に頼まれたからでした。実際、委員になってみると、人間学部の1年生は私だけで不安になり、本のこともよく分からなくて辞めたいと思ったこともありました。しかし、学生図書委員会の活動をしていくうちに、今まで自分の知らなかったことや新しい発見をすることができ、関心が持てるようになりました。例えば、図書館の利用方法です。入学当初、説明はありましたが実際に図書館に足を運ぶことは少なく、よく知りませんでした。しかし、委員になってから図書館を利用するようになり、図書館でパソコンが使えること、コピーができること、本の検索ができることなど初めて知ることができました。私がこの図書委員会で1番印象に残った活動は学生たちが図書館に置きたい本を自分たちで選ぶことのできる「学生選書」の活動です。学生が推薦したたくさんの本の中から、さらに一定数の本を絞って選ぶのは大変でしたが、選びながらこういった本もあるんだと本に興味が湧きました。どんな本なら、在校生に手に取ってもらえるだろうと考えて選択しました。そして何よりも、私が選んだ本が貸出中になっていたときは、誰かが読んでくれているのだなと嬉しくなりました。

図書委員会の活動を通して、私のように最初は本に関心がなくても、活動をしていくうちに少しずつ図書に関することが分かってくるのだと思います。大変なこともありますが、本当に良い経験ができました。今は、スマホがあれば、何でも調べることが出来る時代です。しかし、時々でよいので図書館に足を運んで本に少しでも関心を持ってもらえればと思います。

私の図書館活用術

看護学部1年生　佐藤 綾子

私にとって図書館はたくさんの知識と出会う場であり、読書を通して様々な世界を旅する場でもあります。本棚から一冊本を取り出し、表紙をめくった瞬間私の意識はもう本の中、物語の主人公になったように本の世界に入ってしまうのです。そしてページをめくるたびに新しい発見があり、読み終わるまで本の世界から簡単には抜け出せません。そして最後の1ページをめくり終えて思うのです。「もー度、こんな本を読んでみたいな」と。

そんな私が小学校時代から続けている図書館の楽しみ方があります。1つ目は、時間が出来る度に図書館に足を運ぶことです。目的なんていりません。とにかく図書館の扉を開けて入ってみるのです。次に、図書館の中を散歩してみることです。書棚に並んだ一冊一冊の本のタイトル（背表紙）をじっくりと見ます。そのうちに興味のある分野の本や、授業中に先生が紹介してくれた本に出会えることがあります。何度も図書館の中を散歩することで、いつのまにか図書館の主になったように、どの本がどこにあるかが分かってきて、お目当ての本をすぐに見つけることができるのです。

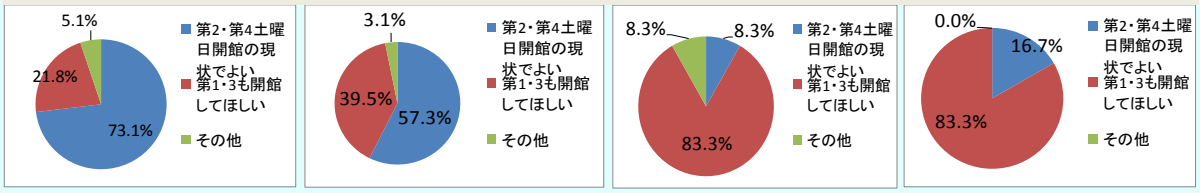
2つ目は、なにげなく本棚の一番端の本に触れ、そこから自分の好きなところまで歩き、止まったところで触れていた本を取り出して読んでみるのもドキっとする瞬間です。その本に興味が無かったり、内容が理解できなかったりしても挿絵や理解できる言葉を探してみるだけでもその分野の本に興味が出てくることがあります。

本学の図書委員になって一層楽しみが増えましたが、私たちが今、取り組んでいる学生のための図書への道しるべを紹介します。学生図書委員会が年２回、数ある本の中から皆さまに役立ちそうな本を購入し、オススメポイントをポップアップに書いて本に挟み、図書館に入ってすぐの場所に置いています。読む本に迷ったらここから読みたい本を探して下さい。また、2018年3月発刊予定の学生から学生に発信する図書館情報紙「Knowledge friends」（ナレッジフレンズ）には図書館の使い方など掲載する予定です。皆さんのご意見や感想を頂きながらパワーアップした情報紙をつくっていきたいです。

平成29年度
図書館アンケート結果報告

全学生を対象に実施したアンケートについて、結果の一部をお知らせします。
（回答者470名・回収率82%）

Q.授業期間中の土曜日開館（左から人間学部、看護学部、大学院、別科）



多くの学生から毎週土曜日を開館して欲しいとの要望があったことを受け、平成30年4月14日（土）より、毎週土曜日開館することになりましたことを報告します。

土曜日の開館時間　9：00～17：00（長期の学生休業期間中は除く。）

平成29年度学生図書委員・図書委員会メンバー
図書館職員と図書館学生アルバイトからの一言メッセージ

〈平成29年度　学生図書委員からの一言メッセージ〉

- 資料がたくさんあるので、調べ物をするときはぜひ図書館へお越しください！
- 調べ物をする際はぜひ図書館へ♪
- インターネットじゃ出てこない情報がこの図書館に出てくる！いざ、確認！
- 小説もありますので、気軽にきてください！
- 本を手にとって知識を広げ、新しい世界に踏み込んでみてください。
- 図書館を利用される方が多くなり嬉しいです。ルールを守って心地好く利用しましょう 。

人間学部2年　猪田 早規
人間学部2年　山本 理沙
人間学部3年　小林 人美
人間学部3年　森居 恵子
看護学部3年　錦見 真依
看護学部3年　村上 敏生

〈平成29年度　図書委員会メンバーからの一言メッセージ〉

- 若い時の読書こそ、血となり肉となる成長の糧なり
- 読書は人生をより深く、より楽しく生きる力を与えてくれます。
- 1冊の本、良き友に出会おう。
- 本はスマホにない「匂い」があります。まずはエッセーを一冊借りてください。世界観が拡がります。
- こんな本が！お気に入りの１冊を見つけてみては。
- さまざまな事に心が動く今だからこそ、たくさんの本に出会って欲しいと思っています。
- 調べものに困った時には、ぜひ、図書館に来て下さい。

看護学部教授　小山 敦代
人間学部教授　李 艶
看護学部准教授 磯邉 厚子
人間学部准教授 脇本 忍
人間学部講師　小澤 克彦
看護学部助教　鈴木 美佐
図書館司書　山川 直美

〈図書館職員からの一言メッセージ〉

- アンケートの声を参考に購入した学生選書も好評です。気軽にご利用下さい。
- 勉強するのも、休憩するのも、図書館で。

図書館司書　加納 香織
図書館職員　宮川 喜秀

〈平成29年度　図書館学生アルバイトからの一言メッセージ〉

- 図書館には沢山の本があります。ぜひ来てみてください！
- 18時以降も本やパソコンの貸出を行っていますので、是非ご利用下さい。
- 静かな環境なので集中して勉強や読書ができます！

人間学部1年　岩永 朱音
人間学部3年　髙橋 衿那
看護学部2年　森島 彩

図書館職員

ご来館をお待ちしております。

The Seisenians No.32：聖泉大学図書館広報
発行日：2018年3月1日
編集・発行：聖泉大学図書館
〒521-1123　彦根市肥田町720番地
Tel.0749-43-7513　Fax.0749-43-5201
E-mail:library@seisen.ac.jp